

助成金の活用 5つのポイント

考え方を知る

基礎知識を身に着ける

苦勞しないように準備する

検討すべき事項を学ぶ

構造的に捉える

(一財)非営利組織評価センター
NPO法人CANPANセンター
山田泰久



2019年度 Ver.05

プロフィール：山田泰久（やまだやすひさ）



NPO法人CANPANセンター／一般財団法人非営利組織評価センター／
寄付月間推進委員会／社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ／
イシス編集学校(松岡正剛氏主宰) 師範代

群馬県高崎市出身、慶應義塾大学文学部卒(フランス文学専攻)。

1996年日本財団に入会。2014年4月、日本財団からNPO法人CANPANセンターに転籍出向。
主に、NPO×情報発信、オンライン寄付、助成金、IT・Web、ノウハウ、出身地などの文脈で
セミナー開催・講師、プロジェクト、情報発信などを実施。

2016年4月、(一財)非営利組織評価センターの設立とともに、業務執行理事に就任し、非営
利組織の組織評価・認証制度の普及に取り組んでいる。

twitter:@canpan2009

Facebook: <http://www.facebook.com/yamadamay>



← CANPAN講座 <http://blog.canpan.info/c-koza/>
CANPAN・NPOフォーラム <http://blog.canpan.info/cpforum/> →



日本財団とは？



- ・1962年設立の民間の助成財団
- ・ボートレース(競艇)の売上金(2.5%)と一般・企業からの寄付金をもとに活動
- ・助成金で幅広く、事業開発で先駆的に、ソーシャルイノベーションの実現を目指す



CANPANについて

<http://fields.canpan.info/>



公益団体のための情報発信サイト

- ・NPOの情報発信プラットフォーム
- ・全国規模の助成制度のデータベース
- ・助成金申請のための団体情報



CANPAN活用の3つのポイント



- ①今のWebでは、スマホ対応とキーワード検索
→ブログの活用
もしやっていないのなら、広告がないCANPANブログを！
- ②人が集まる場所で情報開示・発信
→CANPAN団体情報データベース
法人格を問わず、支援者が知りたい情報開示項目
(助成金申請に必要な項目)
- ③Yahoo!ボランティアの活用
→CANPAN!ピックス掲載から自動連携
(セミナー、ボランティア募集)

情報発信のこともやっています。



セミナーだけでは伝えきれないことを本にまとめました。

NPOのためのIT活用講座
～効果が上がる情報発信術
久米 信行 著 山田 泰久 著
学芸出版社
四六判・224頁・定価 本体1800円＋税



NPOのための
IT活用講座
効果が上がる情報発信術
久米信行・山田泰久 著

■■内容紹介■■

「お金が足りない」「忙しい」「どんな情報を発信していいかわからない」…そんなアナタに、無駄な手間とコストをかけず、個人・団体としての活用を使い分け、広報、資金調達、マーケティング、キーパーソンとのネットワークキングなど、NPOの業務に劇的な効果をもたらす方法を、二人の達人が豊富な事例をもとにお伝えします。



よい団体とは、
よい活動とよい情報発信を
している団体である。

- ①NPOセクターの立場で
→より多くのNPOが情報発信することで、
NPOセクター全体の信頼度をアップする
- ②市民の立場で
→専門的な情報を必要としている人に情報を届ける
→自ら情報発信できない人に代わって発信する
- ③団体の立場で
→団体や活動を持続的にするための資源を獲得する

なぜ、NPOは情報発信するのか？

NPOやその活動は外から見てわからない。
NPOの活動は、現場にいないとわからない。

可視化 価値化

アイスブレイク

あなたは、助成財団のプログラムオフィサー（職員）です。
もし、助成金の原資「2億円」の予算があれば、
どんな助成プログラムを作りますか？

- ① 2分間でアイデアを考えてください。
- ② お隣の方と共有します。
→前後でお一人の方がいらっしゃれば3人をお願いします。
→最初に、一人30秒で自己紹介してください。
・お名前 ・どこから来たか ・どんな団体、お仕事か
→それぞれ自己紹介をしたら、アイデアを共有しましょう。

本日お話しすること

非営利活動を行う組織にとって重要な財源のひとつ、助成金。NPOが活用できる全国規模の助成金・補助金は年間300プログラム以上あります。

さらに、休眠預金という新しいお金の流れが生まれようとしている今、助成金そのものが変革の時を迎えつつあります。その中で、団体の成長ステージにあわせて助成金をどう活用していくのか？その基礎とトレンドを学びます！

【受講目的】

- ・個人としてのスキルアップ(助成金の基礎と考え方を知る)
- ・団体の発展・成長にどう活用できるかをイメージ

★資料は、説明しない部分も参考としてつけているフルバージョンです。

お話しをする前に・・・①

助成金に関する基礎知識は、以下のページの掲載資料参照

<http://blog.canpan.info/c-koza/archive/517>

【基本】初級～上級

1. 助成金の全体像を把握する
助成金の活用2014_セミナー資料_基礎編.pdf
2. 助成金というものがどういうものか、その基本を知る
助成金セミナー基礎編_日本財団萩上.pdf
3. 助成金申請から事業報告まで、助成金に関する一連の流れとやることを学ぶ
助成金活用マニュアル_日本財団萩上.pdf

【応用】中級～上級

4. 助成金を活用するという視点で、あらためて助成金の可能性について学ぶ
助成金の活用2017_セミナー資料.pdf
5. その他、申請から事業実施まで、助成金について参考なると情報を知る。
助成金の活用2014_参考資料.pdf



お話しをする前に・・・②



助成金について学ぶために参考になるサイトや資料など

1. (独法)福利医療機構 WAM助成

<https://www.wam.go.jp/hp/cat/wamjosei/>

助成金に関するノウハウ集や事業評価報告書など参考になる資料が豊富

2. あいちモリコロ基金の調査・評価(基金の運営&助成活動の成果)

https://www.morikorokikin.jp/7_chosa/chosa.html

10年間の助成プログラムの総括報告書が助成金の考え方を学ぶのに最適

3. IHOE [人と組織と地球のための国際研究所]

ソシオ・マネジメント第4号「成果を最適化するための助成プログラムのコミュニケーション調査」

NPOマネジメント(バックナンバー)

<http://blog.canpan.info/npomanagement/>

ソシオ・マネジメントは助成財団向けの内容だが、助成金をさらに詳しく学びたい方にお薦め。

助成金で得られるもの



- ①返済の必要のない資金
→自己負担、資金使途、支払時期の条件に注意
- ②信用・信頼
→助成財団から支援を得ているという信用(第三者が審査)
→事業の実績で信頼を得る
- ③変化・成果
→受益者のエンパワメント
→社会や地域の変化
→事業の成果(アウトプット・インパクト)
- ④資産
→成果、ノウハウ、制作物、実績、ネットワーク、人材育成・獲得
- ⑤事業規模の拡大、充実、発展
- ⑥団体の発展・成長

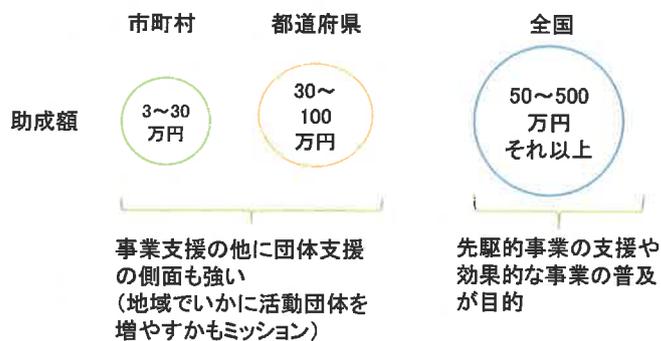
未来につながる助成金



あの助成金があったから、今の活動があるという成果

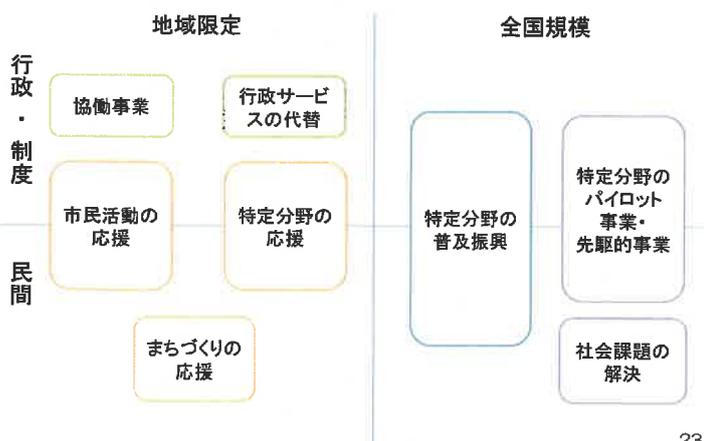
- ① 事業の規模が拡大した、質が上がった
- ② 事業の担い手や支援者が増えた、力量が上がった
- ③ あの時のスタッフが現在のコアメンバーになった
- ④ 事業を通じてネットワークが広がった
- ⑤ 協働パートナーが見つかった
- ⑥ 次の活動資金につながった
- ⑦ ビジネスモデルを構築することができた

助成金甲子園

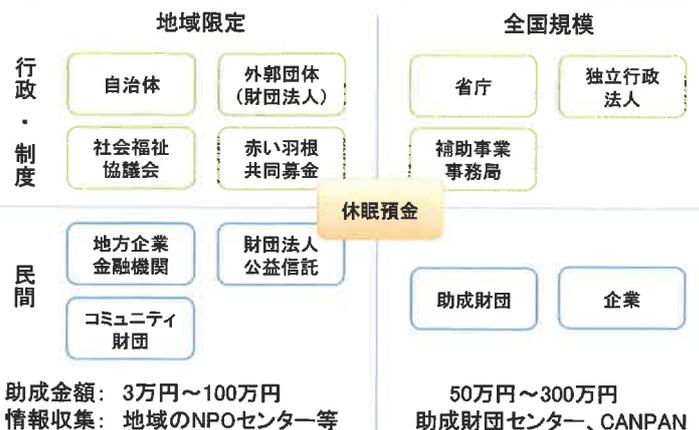


★助成プログラムのほとんどがNPO法人も申請可
任意団体はざっくり8割申請可

地域限定と全国規模の助成金



地域限定と全国規模の助成金



国や自治体の補助金・助成金



- 補助金や助成金について、はっきりした区分はない。
- 政策目標を達成するためには、その目標にあった事業に対して実施のサポートのために給付するもの。

【補助金】公募で審査があり、採択されれば支援が得られる

【助成金】随時募集で、基準を満たせばもらえる
(例:厚生労働省の雇用関係の助成金)

★辞書としての「助成」の意味

『研究や事業が発展し完成するよう援助すること』
→民間の助成金は、辞書の意味に近い

25

【参考】助成財団スタッフが考えていること



『社会は常に変化している。その変化を先取りする事業を進め、その事業に取り組む人たちに支援することが財団の仕事。そして時が経ち、その事業が社会全体に広く浸透し、普遍化した後は、政府に委ねなさい。』

(トヨタ財団の創設に関わった故・林雄二郎氏の著書より
同氏が助成財団の調査のため、アメリカ訪問時に聞いた話)

『資金を配分し、その資金を適正に執行してもらうだけではなく、より良い社会づくりの実現にむけて、でき得る努力や工夫を最大限に行うことが基本的な責任である。』

(IIHOE川北秀人氏「ソシオマネジメントVol.4」から)

★単に資金を配分することだけが役割ではない

26

【参考】助成財団スタッフが考えていること



林雄二郎「フィランソपीー実践のための七つの鍵」

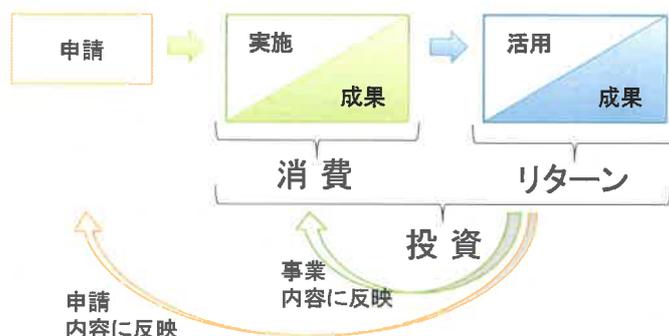
- あまねく平等にではなく、優先順位を持って、深く、且つ、きめ細かく対応すること
- 前例にこだわることなく、新たな創造に取り組むこと
- 失敗を恐れずに速やかに行動すること
- 社会に対して常にオープンで透明であること
- 絶えず自らを評価し、自らを教育することを忘れてはならない
- 新しい変化の兆しをいち早く見つけて、それへの対応をすること
- 世界中に良き人脈を開拓すること

27

助成金の活用



社会課題の解決の一助になることと、**持続的に事業や組織を発展させていく**ことを目指して、助成金+様々なリソースを投入すること



28

NPOの資金調達



事業内容によって適している資金調達がある

- 今の活動にフォーカスして集める寄付
- 今後の発展を計画して申請する助成金
 - 助成金があるうちに継続できる体制、ビジネスモデルを構築する
 - 助成金で試してみる(仮説検証をして、成果を生み出し、実績を作る)

継続性資金

自治体等の制度的な補助金や、企業や個人の寄付等

受益者数や地域の変化などの成果が目標

成果を出し続けることで、継続的な支援が得やすいお金

単発性資金

民間の助成金や省庁の補助金、クラウドファンディング等

仕組みやハード、モデル事業などの「残るもの」が目標

よい成果を出しても、性質上、継続的な支援が得にくいお金

29

助成金申請前に必ず確認すべきこと



助成プログラムの条件のチェック

- 資金使途と助成期間の制約
- 自己負担、自己負担率(補助率)
- 助成金の支払い方法(前払い、中間払い、精算払い)
- 計画や予算の変更の可否
- 事業報告と評価の内容

現在の状況のチェック

- 事業のニーズ
- 助成金をもらうタイミング(事業と組織の視点から)
- 団体内のリソースの余裕度、不足しているもの

30

助成金に関する認識の違い



- 申請する側は「活動」のための資金がほしい
- 助成する側は「事業」のための資金を提供したい
- ⇒助成金申請とは、普段の「活動」の中から特別なものとして「事業」を抜き出す
- ⇒てんこ盛りの活動ではなく、対象がフォーカスされた事業や、特に力を入れて実施したい事業を計画する

助成申請の事業とは

- ・一定の期間を設けて成果目標(ゴール)を設定して計画するもの
- ・これまでの経験をもとに新しい試みをするもの
- ・団体、受益者、地域、社会、未来によい影響を目指すもの

31

助成金の情報収集



- ①データベースから使える助成プログラムを調べる
(助成財団センター、CANPAN、東京ボランティアセンター等)
- ②地域のNPOセンターのHPで地域限定の助成プログラムを調べる
- ③類似団体の事業報告書からもらっている助成プログラムを調べる

★助成金カレンダーを作る

- ★どのような助成プログラムがあるのかをインプットする
- 助成金の考え方で、自団体の事業や活動を違った視点で見ることができるようになり、成長・発展のために活用するアイデアや新規事業を思いつく

★助成金審査の総評を公開している助成プログラムから学ぶ

★報告書のフォーマットから助成プログラムの狙いを探る

32

助成金クイズ



全国規模の助成プログラムについてお聞きます。
みなさんが持っているイメージを余白に書き込んでください。

Q1.助成金の締切が一番多い月は何月？

Q2.助成金の申請上限額で、一番多い金額帯は？

Q3.助成金の採択率の平均は？

33

共有タイム



3, 4人のグループになってください。

①まずは自己紹介から(ぐるっと一巡する)

- ・一人2分で
- ・自己紹介 & 団体紹介
- ・団体としての助成金実績
- どんな事業で、どこから、いくらぐらい助成金をもらったか

②先ほどの助成金クイズの答え合わせ

34

CANPAN助成プログラム白書 ～全国規模の助成プログラムの分析～

2014年2月発行



CANPAN助成制度データベース



- ・全国規模、もしくは複数県で申請募集を行っている助成プログラムで、任意団体を含む公益団体が活用出来るものを掲載
- ・300を超える助成プログラムのリストをもとに、毎週、助成機関のWebサイトを確認し、募集要項が発表された助成プログラムの最新情報を随時更新
- ・データベース形式なので、募集時期や助成金の上限額などの条件で詳細検索を行うことができる

→「CANPAN助成プログラム白書」とは、これらの助成プログラムのデータを分析し、今すぐ活用出来るリアルな助成金の姿をまとめた調査報告書



35

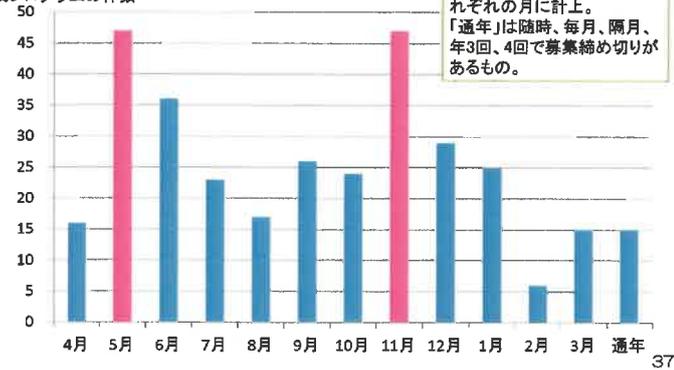
36

締切月別の助成プログラム数



助成金の募集締め切りが多い月は、5月と11月
(それぞれ47件)

助成プログラムの件数



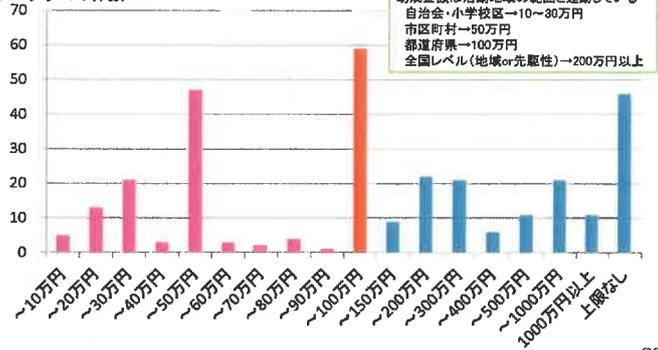
37

申請上限額別の助成プログラム数



申請上限額が100万円のもの59件
上限額100万円までの助成プログラムは158件で、全体の52%

助成プログラムの件数



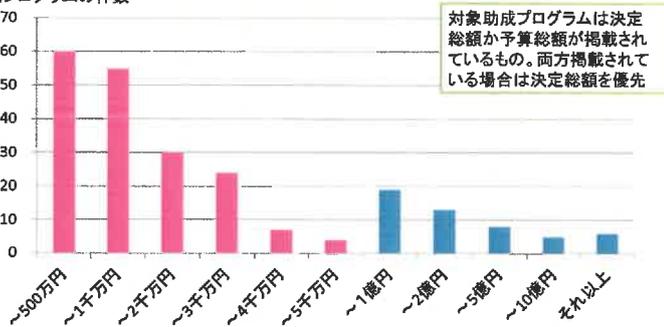
38

助成金総額別の助成プログラム数



対象助成プログラム 231件 合計額32,137,864,043円
助成金総額5000万円以下のものが180件で、全体の78%

助成プログラムの件数



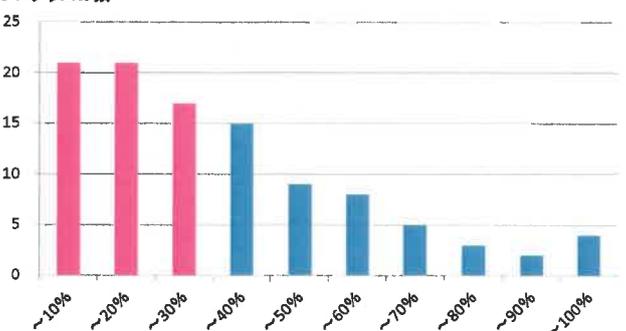
39

採択率別の助成プログラム数



対象助成プログラムは105件で、採択率の平均は32.1%
申請件数31,310件 採択件数11,070件

助成プログラムの数



40

【休眠預金】助成金のイメージ



助成プログラムの種類:

- ①草の根活動支援 上限額:2千万円(3年間)
- ②新企画支援 6千万円(3年間)
- ③ソーシャルビジネス形成支援 6千万円(3年間)
- ④災害支援 4千万円(3年間)

公募時期: 2019年10月~11月

事業期間: 2020年1~3月 → 2023年1~3月(最長3年間)

その他: 原則、事業費の20%以上の自己資金

包括的支援プログラム(助成金+伴走型支援)

半年毎の進捗報告と事業評価

【休眠預金】助成金の対象分野



- 1) 子ども及び若者の支援に係る活動
 - ① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
 - ② 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
 - ③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
- 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動
 - ④ 働くことが困難な人への支援
 - ⑤ 社会的孤立や差別の解消に向けた支援
- 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動
 - ⑥ 地域の働く場づくりの支援
 - ⑦ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

※資金分配団体が提案し採択されれば、上記以外でも、社会課題に多大な影響や効果が期待され、優先して取り組むべき社会課題も対象になる可能性あり

【休眠預金】助成プログラムの種類



1) 草の根活動支援事業

全国各地で地域に根差して**従来から事業を展開している活動の拡大及び成果の向上**を目指す。

2) 新規企画支援事業

従来になかった視点や新たな手法、多様なセクターや組織等との連携などで、社会の諸課題の解決を図る**新規企画の創出と実行の加速**を図る。**社会的インパクトの最大化**を追求する。

3) ソーシャルビジネス形成支援事業

革新的事業で社会の諸課題の解決を図る**ビジネスモデルの創出と推進**を目指す。**社会的インパクトと収益性を両立する事業モデルの確立**を重視する。

4) 災害支援事業

大規模な自然災害等により、長期にわたり困難を強いられる地域とその住民に対する支援活動を実施するNPO等を支援するもの。**「防災・減災支援」、「緊急災害支援・災害復旧・生活再建支援」**の2つのカテゴリ。

JANPIA資料より

43

【休眠預金】助成（最長3年間）の条件



	①草の根活動支援	②新規企画支援	③ソーシャルビジネス形成支援	④災害支援
助成総額	10億円	5億円	3億円	3億円
資金分配団体数	10～20団体	3～5団体	1～3団体	1～3団体
全国ブロック	○	○	○	○
地域ブロック	○	×	×	×
資金分配団体への助成上限額	1億円	2億円	2億円	2億円
実行団体への助成上限額	2千万円	6千万円	6千万円	4千万円
自己資金20% 上限額に基づく助成件数	(+400万円) 50件	(+1,200万円) 9件	(+1,200万円) 4件	(+800万円) 8件

- 草の根活動支援は、地域や分野ごとの多様性に配慮し10～20団体程度を目的に、全国ブロック枠と地域ブロック枠(北海道 東北 関東 北陸 東海 近畿、中国、九州、沖縄)で選定。
- 助成期間は最長3年間。上記の金額は単年度の予算額ではなく、複数年度分の予算額となっている。

JANPIA資料より

44

クイズ：寄付と助成金



あるプロジェクトの活動資金として、100万円がほしい。

あなたの団体はどの方法で資金調達したいですか？

A. 100名の市民から、一人1万円の寄付で計100万円

B. 助成金で100万円

45

外部の資金源の付加価値



信頼の付加価値

→「誰からもらっているか」という評判・信頼

ネットワークの付加価値

→資金源が持っているネットワークを活用できる

事業づくりの付加価値

→資金源が持っているノウハウを提供してもらえる

事業後の付加価値

→成果を上げることで団体の実績になる

→関係が構築される

46

助成金の付加価値



信頼の付加価値

→助成機関からもらっていることによる信頼度向上、実績作り

ネットワークの付加価値

→助成機関が持っている活動分野間のネットワーク

事業づくりの付加価値

→助成プログラムを通じて助成機関に蓄積された、持続的で波及性のある事業づくりのノウハウや視点

事業後の付加価値

→成果を上げ報告することで、団体のことをさらに詳しく知ってもらい、その成果を代わりに宣伝してもらえる

47

助成金申請のポイント



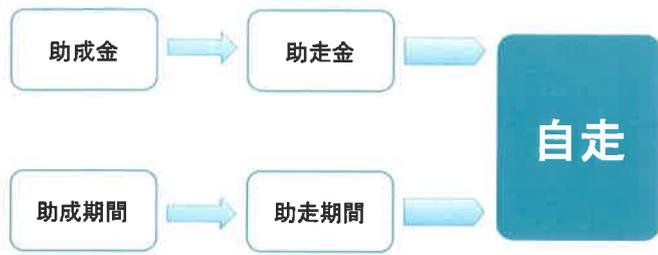
事業内容を考える

事業終了後
をイメージする

申請書に
まとめる

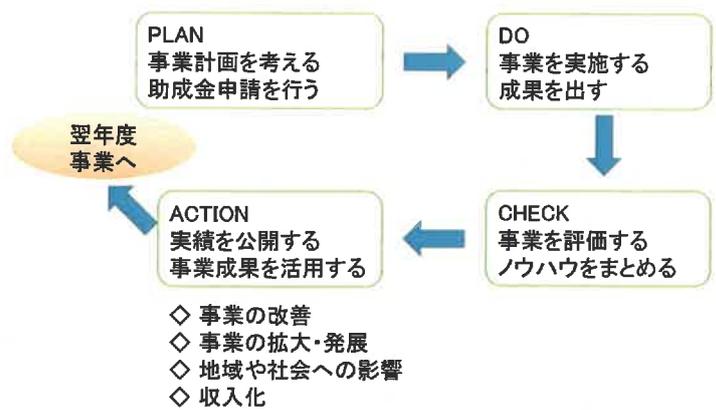
48

助成金のイメージ・チェンジ

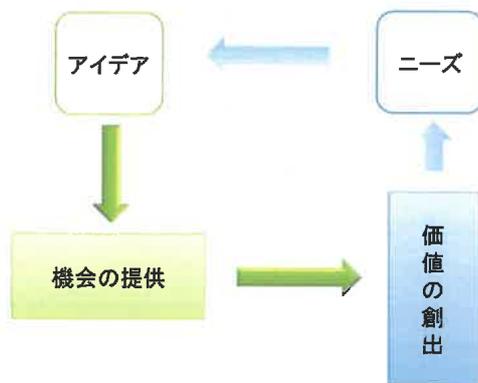


助走というプロセスで「力」を蓄え、大きくジャンプ(成果)する。その後も自走できる実力をつける。

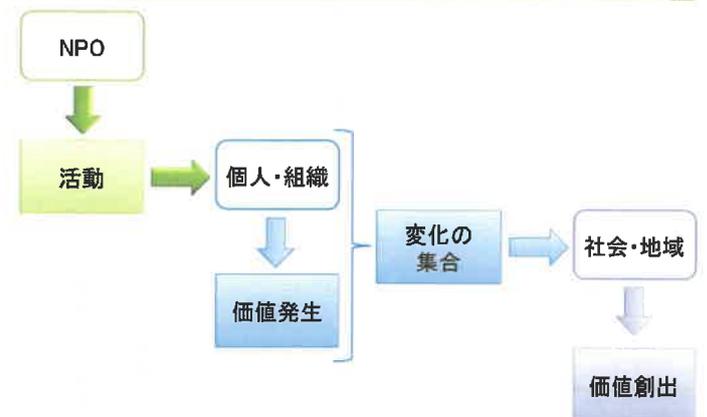
助成金のPDCAサイクル



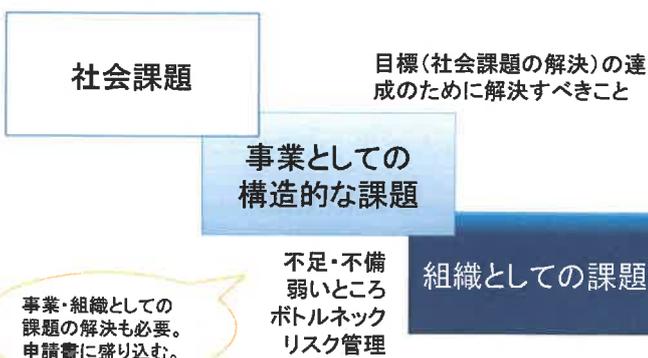
公益活動のフレームワークその1



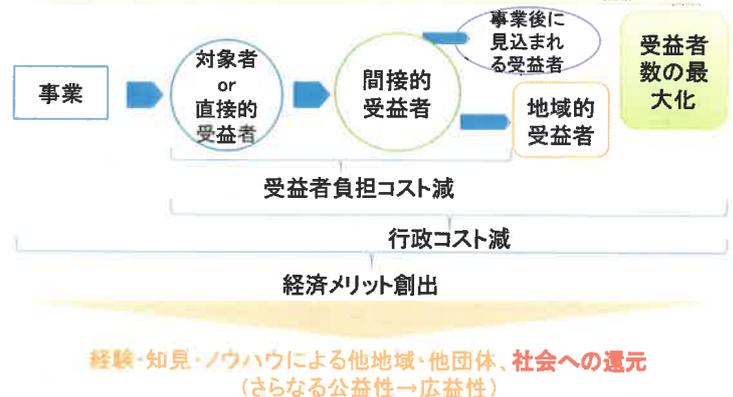
公益活動のフレームワークその2



3つの課題解決



受益者について考える



助成金の考え方のトレンド



1. 関係性で捉える
 - ・受益者を取り巻く地域や社会の中で課題を捉える
 - ・関係する人や組織を洗い出し、事業のポイントを見極める
2. 事業評価で成果と改善を目指す
 - ① 状況分析
事業開始前の地域の状況と受益者の状況
 - ② 目標設定
行為目標: 具体的な実施内容、スケジュールやその事業のステップごとの目標
成果目標: その事業全体を通じて達成したい状況や成果
 - ③ 振り返りとまとめ
活動→結果→変化→成果→評価→改善

55

助成事業による良い効果



【団体内への影響】

- ① 社会実験(仮説)の実証
- ② 事業規模・財政規模の拡大
- ③ 会費や寄付の増加
- ④ 担い手や協力者の増加
- ⑤ 担い手の力量(質)向上
- ⑥ 団体の認知度や信頼度の向上
- ⑦ 他の助成金の獲得
- ⑧ 行政との関係構築、委員、講師、協働、業務委託、指定管理等
- ⑨ 新たな支援者の獲得

【社会や地域、対象者への影響】

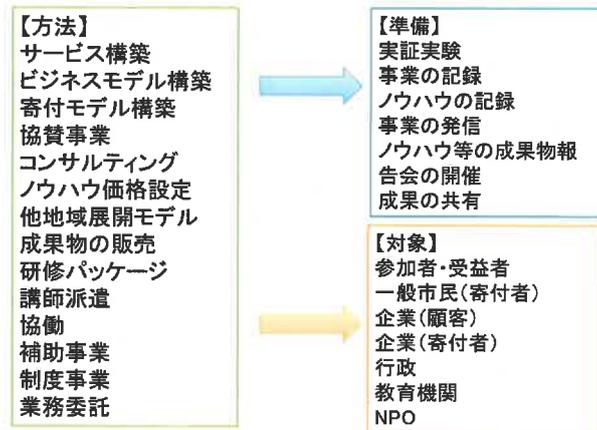
- ① 社会のニーズ課題の周知啓発
- ② 事業の対象者・受益者のエンパワメントや社会参加
- ③ 市民の社会貢献の機会提供
- ④ 地域の協働体制の構築、関係作り
- ⑤ ノウハウや情報の共有・発信
- ⑥ 他地域、他団体が同事業を実施
- ⑦ 行政でモデル事業化
- ⑧ 行政で施策化、制度化

【自主財源の構築】 ★次年度以降の自主財源率向上を目指す

- ① ビジネスモデル化
- ② コンサルによる収入
- ③ 知見やノウハウの価格設定と提供
- ④ 他地域展開モデル
- ⑤ 成果物の販売
- ⑥ セミナー・研修会のパッケージ化

56

自主財源や事業収入化の構築



57

申請と審査：助成財団からよく質問されること



なぜ助成金が必要なんですか？

- × 資金が不足しているから
- 団体や活動が発展・成長していく上で必要な資金だから

助成金が終わった後は、どう続けていくんですか？

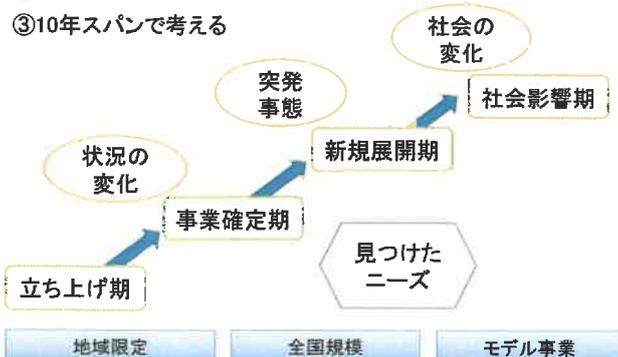
→助成金で◎◎することで、終わった後は～～が見込めます。

58

成長にあわせた助成金の活用



- ① いつ、どの助成金を活用するか
- ② 助成金をもらった後にどう活用して、どう団体の発展に活用するか
- ③ 10年スパンで考える



59

助成金の金額規模から見るレベル感



60

助成金はいつ活用すべきか



参考情報

現場、団体、事業の三つの立場で考える

- 現場は、緊急的ニーズ、社会環境の変化
- 団体は、立ち上げ期、発展期、基盤強化期
- 事業は、新規事業の実施、既存事業の発展

助成金を活用して、どうなりたいかを考える

61

団体としての視点で考えた時



参考情報

立ち上げ期 発展期 基盤強化期

団体を立ち上げた時に活用

- ・立ち上げ団体支援の助成金を活用(助成金50万円以下)
- ・助成金で団体の基礎となる「事業」を整備する

団体を発展させたい時に活用

- ・団体支援を行う助成金は少ないので、事業を中心として助成金を活用
- ・助成金で団体の核となる事業の構築やブラッシュアップ

62

団体としての視点で考えた時



参考情報

立ち上げ期 発展期 基盤強化期

活動実績がある団体が基盤を強化したい時に活用

- ・持続的に事業費をねん出できる事業の構築
- ・団体や事業を支える人材の養成や、ファンドレイジングなどの基盤強化
- ・既存事業のスケールアウトを事業化することもあり
- ・数少ないが、団体基盤強化の助成プログラムを活用
- ・事業を中心にした助成金(200万円以上)を活用するが、団体だけではなく、社会に還元するという視点が重要

63

事業としての視点で考えた時



参考情報

新規事業の実施 既存事業の発展

新規事業を行う時に活用

- ・継続して実施していきたい新規事業を立ち上げる時に活用し、その基盤を作る
- ・立ち上げ初期にかかるコストを助成金で賄う
- ・通常の事業とは違う、単発のものの事業を行う時に活用し、その事業の成果で地域や社会に、「持続的な価値」を提供する

64

事業としての視点で考えた時



参考情報

新規事業の実施 既存事業の発展

既存事業の発展形で事業を行う時に活用

- ・既存事業を拡大・進化させる時、あるいは既存事業から発展させた形で事業を展開させる時に活用
- ・「変化」「違い」が明確な事業であることが大事
- ・その「変化」「違い」に納得性と説得性を持たせる
- ・「変化」「違い」から、今までにない価値を提供する
- ・他の助成金からの振り替えの場合は特に説得性が必要になる

65

既存事業の発展形の解説



参考情報

◇今まで実施してきた事業との違い

◇新たに助成金が必要になった環境の変化

◇事業の中の新しい視点や工夫

◇これまでの事業は「○○」期、申請事業は「××」期というステージの変化

(例)

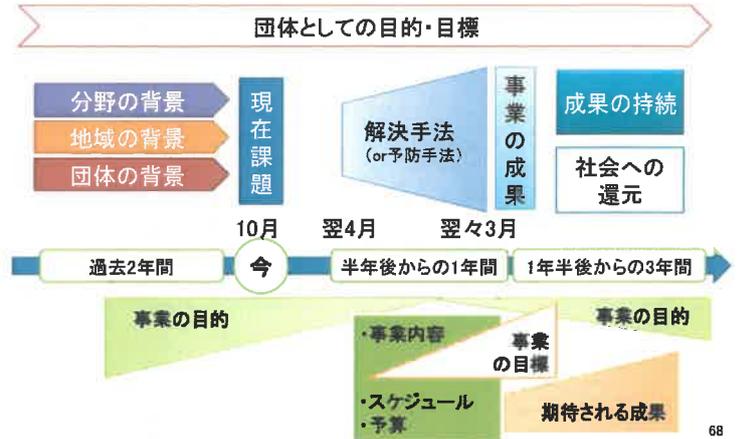
- ・これまでは実験的に自主財源で実施していたが、助成金で事業の基盤を構築する
- ・自分たちの地域で成果が出た事業なので、他の地域に横展開、あるいは他の団体にノウハウを伝える
- ・これまで実施してきた事業のターゲット層からさなるターゲット層にサービスを提供する(地域や対象者)

66



審査担当者は申請書から出発して計画を審査し、事業の実施とその後までをイメージする

民明書房刊『世界公益大全—助成金よもやま話』より



審査項目

- (1) 事業実施体制
 - 活動実績・財務状況
 - 実施者適性、連携・協働
- (2) 事業の目的、内容等の妥当性
 - 事業の目的及び内容
 - 計画の妥当性及び助成の効果
- (3) 費用対効果
 - 経費の妥当性
 - 経費の合理性
- (4) 自立的継続性・将来発展性
 - 自立的継続性、将来発展性
 - 助成の意義

助成事業が終わった後に、何が残るか？何が変わるか？

- 団体にとって
- 受益者にとって
- その業界として
- その地域として
- 社会として

(※) 助成プログラムの目的によって重要視するポイントは変わる

その「成果」が出せる事業内容か、団体として実現可能な実績があるかを審査する

助成する意義や、事業の価値を見つけるために

助成金
100万円以上

- 助成金の波及効果は？
- 団体、地域、社会、分野にどういった効果を生みだすのか？
- 助成事業終了後はどうするのか？

事業の新規性と団体の調査度合を確認するために

- 他の団体ではやっていないのか？
- 他の地域ではやっていないのか？
- 団体として初めてなのか、その分野として初めてなのか？

不採択にするための質問ではなく、採択するための理由を見つけるために質問する

申請者は、なぜ助成しないといけなのかの理由を提供する

申請者は、数字的な証拠を用意しておく

助成金も インターネットが当たり前

73

助成とネット

時代の変化とともに助成金とネットのあり方が変わっている。

→募集要項、申請募集、助成決定事業一覧、事業報告、事業成果物など、インターネットを活用して行う時代に

→助成事業の成果として、同じような団体であれば、ネットでの情報発信力が高い団体のほうがより効果的な事業ができると判断されることも出てくる

74

申請する前に情報の整理を

- ・ホームページ上で、団体概要がわかりやすく掲載されている
- ・計画書と報告書、予算と決算がちゃんと掲載されている
- ・今の活動の様子がわかる
- ・外部のどういった人と連携しているのかわかる
- ・これまでに助成金でどういう成果を出してきたのかわかる
- ・ソーシャルメディアの活用状況がわかる

★ホームページやブログなどが、団体や活動、実績をアピールする素材に

★ネットでの情報発信力も審査のポイントになりつつある

75

申請する前に情報の整理を

情報発信の整理の目的

→助成機関の担当者がネットで検索をした時に、魅力的な団体と感じてもらえるように

→社会変革のためには、単独で行うのではなく、様々なセクターの関係者といかに協働で行うかが大事な時代になってきているので、そういった点もアピールポイントになる

→更新されていないサイトやブログがある場合には、誤解が生じないように、そのサイトがクローズしたこと、移転したことを明確に表示する

76

申請する前に情報の収集を

どんな助成制度があるのかネットで調べる

→見方を変えて、活用できるかどうか、想像を膨らませる

様々な助成制度の募集要項や申請書の書き方を読む

→考え方や視点を学んで、自団体の事業計画に役立てる

助成実績を調べる

→その助成プログラムの規模感、対象団体の種別、内容(事業名から推測)を感じ取る

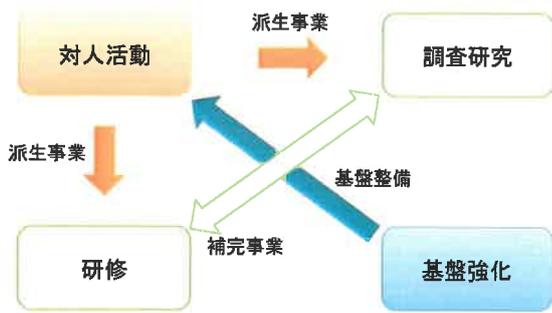
→助成金額の規模から、どういった目的を持った助成金かを推測

77

助成金申請の事業づくり

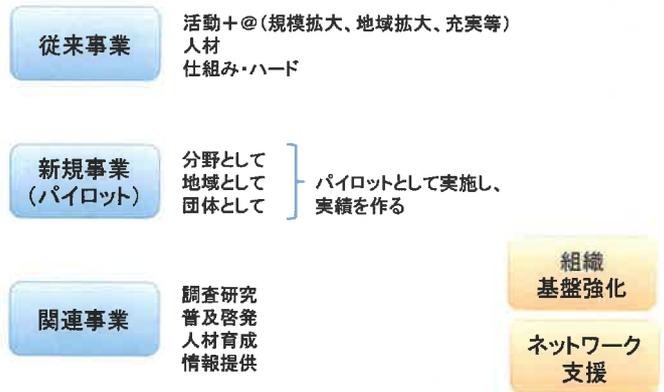
78

助成事業の事業内容の4大テーマ



79

助成金の事業センス

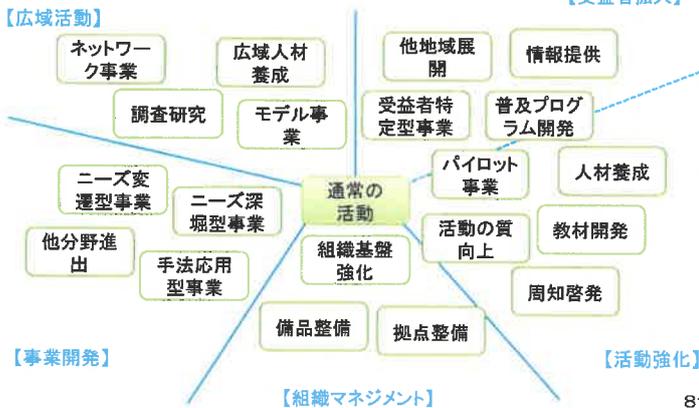


80

申請事業の型



例: 中高生の学習支援



81

申請事業の型



【組織マネジメント】

組織基盤強化... 寄付・会員集めの仕組みづくり、Webサイトやパンフ制作など
備品整備... 教室の備品購入
拠点整備... 建物の建設や、空き物件の改修

【活動強化】

パイロット事業... 長期休暇中のキャンプ合宿の開催(この団体としては初めてだが、他の団体ではすでに実施され、成果を上げている事業)
活動の質向上... 専門家を呼んで活動の質を上げるための研修やプログラム開発
人材養成... 学習支援を行う大学生ボランティアの養成や研修プログラムの開発
教材開発... 学習支援の教材開発やテキスト作成
周知啓発... 地域における学習支援の必要性を伝えるシンポジウム等の開催

82

申請事業の型



【受益者拡大】

普及プログラム開発... 学習支援プログラムの体系化、パッケージ化
受益者特定型事業... 貧困世帯の子どもの対象とした学習支援活動
情報提供... 行政や受益者(保護者や子ども)へ学習支援に関する情報提供を行うためのWebサイトの開設
他地域展開... 他の地域でも同様の活動を行うための立ち上げ事業

【広域活動】

モデル事業... 団塊世代の教師OBを活用した学習支援の実施(他の団体でも行われていない新規事業で、その分野でモデルになるような事業)
調査研究... 学習支援の内容や成果に関する調査研究
広域人材養成... 全国各地の同じような活動をしている団体の学生ボランティアを対象とした研修プログラム
ネットワーク事業... 全国各地の同じような活動をしている団体をネットワーク化するための事業

83

申請事業の型

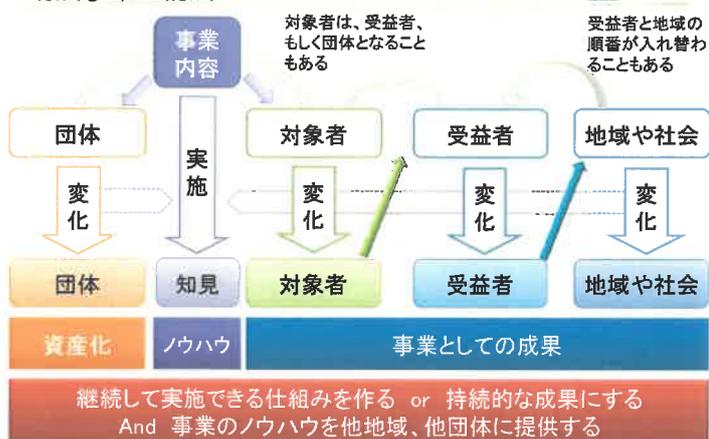


【事業開発】

ニーズ発掘型事業... 中高生がいる貧困世帯を対象とした家族支援(活動の中から見えてきた本当のニーズへの対応)
ニーズ変遷型事業... 高校生の就職活動支援(受益者のライフステージにあわせてニーズが変わる場合)
他分野進出... 子育て世帯に対する支援活動
手法応用型事業... 大学生ボランティアと学習支援を活用した高齢者の認知症対策事業

84

助成事業の構成



助成金による資産作り



助成事業のプロセスを通して、5つの資産を作る

- 【人】 協力者、参加者、人材養成
- 【モノ】 備品、Webサイト、テキスト、施設、設備
- 【仕組み】 低コスト化／事業収入／ノウハウ移転で収益
- 【ネットワーク】 助成機関、行政、他セクター、専門家
- 【ノウハウ】 事業の専門性、組織マネジメント

事業終了後も活用できる資産を作る

報告や成果のまとめ方



行為目標: 具体的な実施内容、スケジュール
その事業のステップごとの目標
成果目標: その事業全体を通じて達成したい状況や成果

【とりまとめ→自己分析→自己評価→未来予測】

- ①結果報告(行為目標)
 - ・活動実績のまとめ
 - ・アンケート結果のまとめ
 - ・事業のプロセスの分析(目標と実績のギャップ)
- ②成果報告(成果目標)
 - ・事業による変化の分析(目標と変化のギャップ)
 - ・結果から成果への分析
 - ・ヒアリングの実施とまとめ
 - ・自己完結の分析・評価
- ③付加価値情報
 - ・波及効果の分析、事業の改善策とネクスト・ステップの作成
 - ・ノウハウ集のまとめ

【参考】

CANPANの 団体情報データベース ～助成金申請の 団体情報として活用～



CANPANについて

<http://fields.canpan.info/>

公益団体のための情報発信サイト

- ・ NPOの情報発信プラットフォーム
- ・ 全国規模の助成制度のデータベース
- ・ 助成金申請のための団体情報



CANPAN団体情報の項目



CANPAN団体情報は、主要な助成プログラムの申請書で求められる情報と、国の定める標準開示フォーマットの項目で構成されています。



